References

Narayana, L. L. & M. Radhakrishnaiah, 1976. Floral anatomy of Pittosporaceae I. Journ. Jap. Bot. **51**: 278-282. —— & ——, 1978. Floral anatomy of Pittosporaceae II: 1978. Acta Bot. India 6: 104-197. —— & ——, 1979. Floral anatomy of Pittosporaceae. III. Journ. Jap. Bot. **54**: 342-349. Radhakrishnaiah, M. & L. L. Narayana, 1977. A note on the floral anatomy of *Pronaya elegans* Hugel. (Pittosporaceae) Curr. Sci. **46**: 866. —— & ——, 1978. Vascular anatomy of *Pittosporum floribundum* Wight and Arn. (Pittosporaceae) Curr. Sci. **47**: 167-168. Saunders, E. R. 1939. Floral Morphology, Vol II. Cambridge. Schaeppi, H. 1971. Zur Gestaltung des Gynoeceums Von *Pittosporum tobira*. Ber. Schweiz. Bot. Ges. **81**: 40-51.

* * * *

トベラ科の *Sollya fusiformis* と *S. heterophylla* の花の維管束走行を調べた。両種とも５枚のがく片，５枚の花弁，５本の雄しべ，２心皮からなる合成子房の花をもつ。*S. fusiformis* のがくは基部まで分れているが，*S. heterophylla* ではがく片の基が合着している。各がく片には３本の維管束が入るが，２本の側方維管束の分岐の仕方はやや異る。両種とも花托に10本の維管束が現われ，そのうち５本はがく片の中央維管束に入るが，他の５本は２岐して，それぞれ隣りのがく片の側方維管束となる。しかし，*S. fusiformis* の一部の花では，第３番目または第４番目のがく片で，側方維管束は中央維管束から直接分岐するものが見られた。

□高謙・張光初：**東北苔類植物志** 220 pp. 1980. 科学出版社，中国北京市. 2.2元.
中国の苔類についてのフロラ的な取扱いはこれまでほとんど発表されていなく，この面での暗黒大陸といってよい。今回の上記の本は中国の東北三省（黒竜江，吉林，遼寧）の苔類をフロラにまとめたもので，55属174種が取扱われている。一部に同定の疑わしいもの（例えば *Plagiochila asplenioides* var. *miyoshiana* としてあるのは図から判断して *P. satoi* である）もある。16の新種と４つの新変種及び新品種が記載されているが，この中には明らかに synonym となるものが含まれている（例えば *Pedinophyllum major-perianthium* は *P. truncatum* と同じものである）。しかしながら，こうしてフロラにまとめられた苔類相をみてみると，日本の東北地方や北海道の苔類相とよく似ていることが分り興味深い。中国各地のこうしたフロラが早く完成することを期待したい。

（井上　浩）